

事業所名

そらまめの学校

支援プログラム（参考様式）

作成日

令和7年

1月

30日

法人（事業所）理念	成人期を見据え、長期的ビジョンに基づく支援を行う				
支援方針	大人になった時の困りごとが1つでも多く減ることを見据え、個別のアセスメントをしっかりと行い、適切な支援をすることで困り感や不得意を減らす。				
営業時間	10時	0分	19時	0分	送迎実施の有無 あり なし
支 援 内 容					
本人支援	健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症予防を兼ねて来所後はうがい、手洗い、消毒を徹底。ルーティン化する。1人では難しい児童に対しては指導員がついて教えながら行う。 ・基本的な生活動作ができるよう自立訓練プログラムのほか、学休日には外出プログラムやクッキングの時間を設けている。 ・正しい挨拶や物を借りる際の声掛けの仕方を教え、徹底させる。また、自分のことは自分でする、を基本とし、どうしても無理なこと以外は本人にさせる（片付け等） 			
	運動・感覚	<ul style="list-style-type: none"> ・学休日はウォーキング、登山等で脚力や基礎体力、バランス感覚を身につける。 ・平日はけん玉で定位、連結、反応、バランス能力、音楽で音感やリズム能力、和太鼓で変換、識別、リズム能力を身につける。 ・7つの運動能力や感覚統合を意識した内容を取り入れた室内ゲームや、目と手の協応動作や微細運動、力の入れ具合、色彩やバランス感覚を養う工作を行う。 			
	認知・行動	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラム内に視覚認知や空間認知力を育む室内ゲームを取り入れる。 ・オリジナルすごろく等で指示を読み取る力をゲームの中で育む。 ・よい行動、よくない行動を明確にし、よい行動は褒めで強化、よくない行動は個別の特性に合わせた方法で伝えることにより理解させ、なくしていく。 			
	言語 コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ・集団の中でペアやチームを組む活動を取り入れ、協力する力を身につける。また、コミュニケーション課題によって会話によるコミュニケーションの機会を作る。 ・指導員は簡潔かつ明快な指示により、理解しやすくする。理解できることで自信を育み、積極性を身につける。 ・発語のない児童や言語理解が困難な児童に対しては非言語コミュニケーションや非言語ツールを用い、本人の気持ちを引き出すことや指示の理解につなげる。 			
	人間関係 社会性	<ul style="list-style-type: none"> ・送迎時や来所時、必ず相手の目を見て挨拶する。指導員は積極的に児童と関わることで相互理解を深めるとともに信頼関係を築く。 ・問題が起きた時どう解決すればよいか、困った時どう対処すればよいか、経験の中で都度相手に合った方法で教える。また個別課題で考え、教える機会を作る。 ・事業所内のみならず外出活動の際も、人と関わる際のルールやマナーを体験により教えていく。 			
家族支援	送迎時の会話やLINEにてご家族の悩みや困りごとに対応できる態勢を整えている。また、ご家族の仕事の都合やレスパイトを含む家族支援として、サービス提供時間を超えての預かり希望に応じたり、希望に応じて保護者と一緒に余暇活動プログラムに参加できる機会を設けている。	移行支援	移行前から相談支援専門員と連携をとり、定期的にモニタリング報告を行うことでスムーズに支援が移行できるよう努めている。		
地域支援・地域連携	地域部会や研修会等にはできる限り積極的に参加し、地域連携を含めた情報共有に努めている。	職員の質の向上	社内において月1回の研修を行うほか、社外研修等にも積極的に参加し、伝達研修を行っている。		
主な行事等	平日（通常時）以外の行事として、公共交通機関を用いたすごろくゲーム、サーカス・映画鑑賞、各種公園やプールでの水遊び、各種施設訪問、登山、平和に関する活動、夏祭り、町歩き、ディスクゴルフ、果物狩り、釣り、ハロウィンパーティー、アート作品制作・鑑賞、お菓子作り・そば打ち体験、織物・染物体験、クリスマス会、アイススケート、ウォークラリー、アスレチック、クッキング、初詣、とんど、クリーン大作戦、ウォーキング、クアハウス、こんにやく作り、ボルダリング体験、迷路・お化け屋敷、謎解き等				